

# 英語力向上に向けて、MEXCBTを使ってみました！ 岡山県ver.



## 岡山県での活用はこれだ！

### ■生徒の自己調整力を高めるための取組

教師は「話すこと」(1\_1、1\_2、1\_3、2\_1、2\_2)の問題を5問配信し、生徒が自分の英語力に応じて、適切な問題を選択して取り組めるようにした。右図のワークシートで自己評価等を行わせた後、再度問題に取り組ませた。

生徒はサンプルアンサーと自分の解答を比較し、改善点を見つけて自身の表現を見直すことで、自己評価を軸とした学習改善サイクルを循環させていた。

### ■生徒が自分の考えなどを形成し再構築するための取組

事前学習として家庭で、「話すこと」(2\_1、2\_2)に取り組ませ、その内容と関連するテーマで授業中にやり取りを行わせることで、家庭学習と授業とのつながりを持たせた。

生徒はサンプルアンサーの英文や解説を参考にし、意見を述べる際に「比較」「考察」「例示」等の視点をもつことの重要性を理解するとともに、主張を支える根拠や情報を整理し、自分の考えを形成、再構築する機会とした。



### 【ワークシート：自己調整力の育成】

**STEP 1**  
 ・サンプルアンサーやスクリプトを10点として、自分の解答に点数をつけよう。 →  点  
 【自己評価】  
 ・なぜその点数にしたか、どうすれば10点になるかを記述しよう。  
 <なぜその点数にしたか>  
 <どうすれば10点になるか>

**STEP 2**  
 【見直し】  
 ・次回の目標 →  点  
 ・目標を達成するために、いつ、何をして、どんなことに気を付けますか。

**STEP 3**  
 【行動】  
 ・自分の【見直し】を実行できましたか。 →  はい  いいえ

**STEP 4**  
 【振り返り】  
 ・同様の問題の再挑戦の結果 →  点  
 ・自分の力を高められたか、一言感想を書こう！

### 【やり取りにおける活用】



(岡山県立岡山操山中学校の取組から)



### 生徒の声・反応

- ・家庭で英語を話す相手がいなくても、英会話の練習ができるのが嬉しかった。
- ・サンプルアンサーの英文は難しく正直よくわからなかったが、解説を読んで、自分の発言において「比較」や「考察」ができていないことに気が付いた。
- ・言いたいことを英語で言えない時に、前よりも別の言葉でうまく言い換えられるようになった。
- ・繰り返し学習することで、話す内容がある程度頭に入ってきて、考えを伝えやすくなった。



### 教師の声・反応

- ・「自己採点」「自己調整」「自分のための学習」の視点で考えた時、本取組は生徒が自分で学びを進める力の向上に有効であった。
- ・サンプルアンサーから生徒の表現の幅が広まり、語彙力が高まっていると実感した。
- ・問いに対する答え方をサンプルアンサーを通じて学び、どのような内容や構成で伝えるべきかを考える機会となっていた。
- ・どの生徒も2回目に大幅に点数が伸びていた。



### 教育委員会・学校で行った工夫が効いた！

採点機能がないため、サンプルアンサーだけではどの程度話せば「おおむね満足できる」状況かを判断するのが難しい。

採点することを活用の目的とするのではなく、サンプルアンサーと自分の解答を比較することで改善点を見つけ、表現を見直すことで、自己評価を軸にした自己調整力を高めるツールとして活用を推進する。

「話すこと」(1\_1、1\_2)では、解答が短いためほぼサンプルアンサーの暗記のような活動になってしまう。

「Make an original story」とすることで、単文ではなく、まとまりのある英文を伝える活動になる。例：「なぜ自転車に乗っているのか。」「これからどこに行こうとしているのか。」など、複数文で絵を説明する。